

- ・お互いを認め合い、助け合う
- ・よく考え、共に学び合う
- ・進んで体をきたえる



今年は桜の開花が遅く、学校の桜ももう少しかかりそうです。令和5年度はコロナ感染前の教育活動をだいぶ行うことができました。先日、25日(月)には令和5年度の修了式を迎え、体育館で一人一人の表情を見ながら改めて、1年間の体と心の成長を感じました。保護者の皆様には御理解と御協力を頂き、改めて心より感謝申し上げます。春休み中は、引き続き、御家庭でもお子様の体調の管理に十分気を付けてお過ごしいただき、また始業式に元気に会えることを願っています。

○校長の思い① 「夢を抱いて…」 「よき出会いを…」

令和5年度卒業証書授与式

3月15日(金)、春の日差しがさす中で令和5年度卒業証書授与式を執り行いました。今年度も、ご来賓をお呼びし、5年生代表も参加し、式が行われました。マスクの制限もなく式を行うことができ、卒業生一人一人が晴れやかな表情でした。また「卒業証書授与」ではとても落ち着いた態度で、しっかりと前を向き、立派に証書を受け取っていました。「別れの言葉」では気持ちのこもった呼びかけと素敵な歌声を会場いっぱいに響かせてくれました。特に合唱では、歌を進めていくほど気持ちが歌に乗り移り、本当に素敵な時間と空間になりました。校長式辞では、「夢を持つこと」と「よき出会いを」という話をしました。しっかりと私の目を見て話を聞く姿勢からは、卒業生の自覚と誇りが伝わってきました。夢を持って、未知の可能性を開花させ、よき出会いをしながら、前に進んでほしいと思います。123名の卒業生一人一人が、信篤小学校で学んだことを力にして、中学校でも自分の夢や目標に向かって成長してくることを職員一同、心から願っています。



○校長の思い② 「底力(そちから)」

3月25日(月)に修了式が行われましたが、校長の最後の話として「**底力(そちから)**」という言葉を紹介しました。この言葉は、新型コロナウイルス感染症が広がり、学校でのいろいろな活動ができない時に、テレビのCMの中で使われていた言葉ですが、この「底力」を「うまくいかない時に、それでも続ける努力」と言っています。私は、信篤っ子には底力があると思っています。そして、底力をもっともっとつけてほしいと思っています。うまくいかない時に、それでも努力し続ける底力を持って、子ども達には前に進んでほしいと思います。

